

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	三原市立木原小学校
授業者	住元 俊亮

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

ストップ海洋ごみ

#### 1-2. 学年

第5・6学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

#### 1-4. 単元の概要

本単元では、木原の海の環境変化について取り扱った。昨年度までの学習で、「海のゆりかご」と呼ばれる海藻のアマモの栽培や生物調査を通して、木原の海は多種多様な生物が生息可能な環境をもつ「豊かな海」とであると結論付けてきた。その一方で、海岸や小学校横を流れる柳川には多数のプラスチックごみが散見される現状もあったため、海洋プラスチック問題に焦点化して「豊かな海」とは何かを捉え直す必要があった。そこで、本単元「ストップ海洋ごみ」では、木原の海、瀬戸内海（三原市幸崎有竜島）、日本海（島根県浜田市）をフィールドにそれぞれの場所での海洋プラスチックごみ問題について調査し、問題の現状や打開策について自分なりに考えて発信する学習を展開した。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校で学習の共通テーマに据えているSDGsの目標14の内容に示されているように、現在、世界全体で年間数百万トンを超えるプラスチックごみが海洋流出していると推計される。（日本は年間2～6万トンと推計）これにより地球規模での生態系、生活環境、漁業、観光等への悪影響が懸念され、国連などの様々な国際会議において、重要かつ喫緊の課題として議論が行われている。環境省においても令和元年5月に「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」を策定し、「プラスチックが社会と持続可能性に対して果たす重要な役割を認識しつつ、海洋プラスチックごみの流出防止に世界全体で連携して取り組む必要がある。」と示し、「プラスチックごみの回収・適正処理」や「ポイ捨て等による海洋流出の防止」や「海洋生分解性プラスチックや紙への素材転換」を具体的な取組として挙げている。このように、海洋ごみの問題は世界的課題であり、木原における「持続可能性」を考えることは、世界的な「持続可能性」を探ることに繋がると言える。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

育成を目指す資質・能力

- 【知・技】①木原の自然環境に変化がある      ②昔と現在を比べ、未来を考える  
【思判表】①情報を比べたり分類したりする      ②情報から自分の考えをまとめる  
【主体的】①問題解決のために友達と話し合う      ②リーダーシップを発揮する

単元の評価規準

第5学年【知・技】ふるさと木原の自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことに気づくとともに、ICT等を効果的に活用して情報を収集している。

【思判表】ふるさと木原の自然環境から問いを見出し、設定された課題の解決に向けて、事象を比較・分類している。

【主体的】学習に主体的、協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

第6学年【知・技】ふるさと木原の自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり一定でないことに気づくとともに、ICTや図書で調べるよさを理解し使い分けながら情報を収集している。

【思判表】ふるさと木原の自然環境から問いを見出し、自分で課題を立て、解決に向けて、事象を比較・分類している。

【主体的】学習に主体的、協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

1-7. 単元の展開（全22時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前年度の学年が作成した成果物を見て生まれた関心や新たな疑問から課題を設定する。</li> <li>○校区のまち歩きを行い、小学校周辺の河川や海の様子を観察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分事として課題を捉えられるように、素朴な疑問や関心を出させる。</li> <li>・地域の住民に校区の環境についてインタビューで聞き取りができるよう依頼しておく。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SDGsの内容や目指すゴールについて補助教材をもとに学習する。</li> <li>○海洋プラスチックごみに関する、日本や世界の現状を調査する。</li> <li>○校区の海岸でのごみ調査と河川でのCODパックテストを用いた水質調査を行う。</li> <li>○島根県浜田市での海洋ごみ調査を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助教材「SDGsスタートブック」を使用して学習を進める。</li> <li>・ICT（クロームブック）や図書を適切に活用しながら情報を収集させる。</li> <li>・海岸での海洋ごみ調査と河川の上流、中流、下流での水質検査を行い、環境の様子を把握させる。</li> <li>・瀬戸内海の海洋ごみの現状との共通点や相違点を見つけさせる。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決に向けた方策について議論する。</li> <li>○実施する活動へのアドバイスをもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かな海」を実現するために必要な活動は何なのか根拠を持って話し合わせる。</li> <li>・他校の児童から実施する活動についてのアドバイスを受け、活動を改善させる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門家（シーグラスアート作家）へ連絡を取り、特別授業を行ってもらおうよう依頼する。</li> <li>○専門家からの特別授業を受け、シーグラスアートの作り方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼の内容や連絡などを自分たちの力で極力行わせ主体性を培う。</li> <li>・海洋ごみをアートに昇華する方法やそのよさについて学び取らせる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの資質・能力の変容を感じ取らせる。</li> </ul>

## 2. 学習活動の実際

### 2-1. 単元における位置づけ



単元 2 2 時間中の 1 4 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

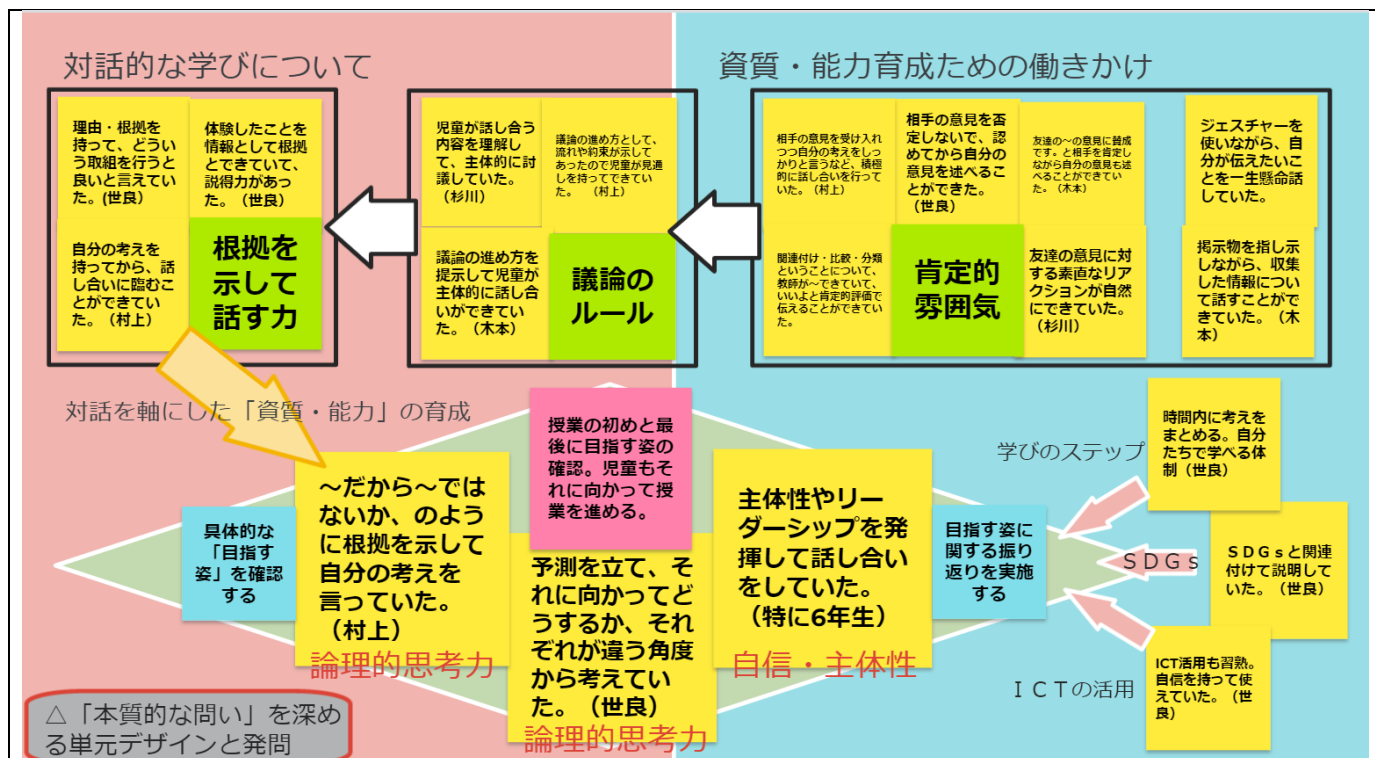
### 2-2. 本時の目標

「豊かな海」の環境作りに向けて、海洋ごみの問題・生物の多様性・川と海のつながりなどの複数の情報について整理することを通して、問題解決に向けた方策について根拠をもって決めることができる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時までの学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木原海岸でのマイクロプラスチック調査, 柳川での水質・生物調査</li> </ul> <p>2 本時の学習課題と目指す姿を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「豊かな海」の達成に向けてできることを考えよ</p> </div> <p>3 前時までに収集した情報（海岸調査, 柳川調査, ポスター制作）について整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の写真や学習の成果物を提示することで、これまでの活動を想起させる。また、「豊かな海」の達成という最終的な目標を確認させる。</li> <li>・ステップチャートを示し、学習の見通しと具体的なゴールイメージをもたせる。</li> <li>・これまでの成果物をもとに、活動を通して分かった情報をワークシートに書き込ませる。</li> </ul>
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 10px;">  <p>・海岸調査ではマイクロプラスチックが木原海岸にあると分かったね。柳川調査では、上流と下流で水質に違いがあると分かったよ。</p> </div> <div> <p>4 整理した情報をもとに、自分たちの今後の活動方針を考える。【他者との対話】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◀何をを目指すのか▶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○海のマイクロプラスチックを減らす                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな海づくりに直結するね</li> <li>・海岸がきれいになれば問題解決なのかな</li> </ul> </li> <li>○柳川の水質を改善する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・海に流れる水の水質改善になるね</li> <li>・どうすれば水質は改善されるのだろう</li> </ul> </li> <li>○家庭からのごみ排出を抑える                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみが減れば海への流出も減るね</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="margin-left: 10px; margin-top: 20px;">  <p>自分たちで清掃活動を行おう。○○の清掃をして、よりよい環境づくりをすることが、少しずつでも木原の「豊かな海」作りにつながるのではないかな。</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>◀どこで活動するのか▶</p> <p>○木原海岸の清掃活動 ○柳川の清掃活動 ○地域の清掃活動</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見を最後まで聞き、自分の考えと比較させる。相手の意見を受け容れつつ今後の活動を決めさせる。</li> <li>◆何を指して活動を行うのか、問題解決の第一歩は「柳川」「海岸」のどこが適しているか議論させる。</li> </ul>
<p>5 活動の詳しい計画を立てる。</p> <p>6 本時における「資質・能力」の高まりや変化をワークシートにふり返り、次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロムブックを用いて共同作業をする。</li> <li>・自分の考えをまとめる過程や友達と意見を出し合う過程における自身の姿について振り返らせることで「資質・能力」の高まりや変化に目を向けさせる。</li> </ul>

### 3. 今回の活動の自己評価



(※ 授業後に参観者で協議した内容をまとめたもの)

- ・学級内の肯定的な雰囲気が議論をより活発にさせていた。
- ・あらかじめ議論のルールを明確にしておくことで活動をスムーズに行えた。
- ・根拠を示して話す力について指導できていた。
- ・育成を目指す資質・能力を示して児童と教師とが共通のゴールイメージを持つことができた。

### 4. 今後の課題

- ・本質的な問いを深めるための単元デザイン
- ・本質的な問いに迫るための意図的発問の設定。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・ICT機器として、GIGAスクール構想で一人一台配備された端末を使用。